

1.空堀の歴史とまちなみの特徴

□空堀のまちなみ形成の歴史

豊臣時代に大阪城郭の外堀が位置していたことから地名がつけられたと伝えられる空堀界隈は、戦災によりまちなみのほとんどが焼失した大阪都心部にあって、大阪の都心居住の歴史を今に伝えるまちなみや歴史的資源が豊富にあります。また、中世には公家を中心に大流行した熊野詣の交通の要所となり、熊野街道や御祓筋など歴史的な道筋も残されています。

●豪商寺島家の拝領による市街地と武家地の開発、町人町としての発展

空堀は、近世の松平忠明による大阪復興と市街地開発の折に、界隈の東半分が武家地、西半分を市街地、谷町筋・上町筋は寺町として開平されます。

市街地として開平された西半分は、御用瓦師であった豪商寺島家の瓦の土取場となり、その後、町人町として発展しました。

東半分は鉄砲奉行の同心 50 人の屋敷が並ぶ武家地で、五十軒屋敷・五十軒通といった通称がつけられていました。

●高低差のある地形に建つ町家や縦横に走る路地、都心生活の原風景

近代に入ってから、近世の町割を継承しながら宅地開発が進行します。大坂三郷の市街地開発は、下水を背割に東西 70 間、南北 32~3 間による格子状の両側町で、敷地の通り側に居室を、敷地奥に借家を置く様式が主流となりますが、市街地開発に合わせて寺島家に拝領された空堀界隈は、南北 130 間の大きな街区であり、通りから敷地奥の借家へと続く路地が縦横に形成されました。

空堀には、土の採取等によって生まれた高低差のある通りに軒を連ねる町家や長屋があるほか、路地を中心にそこに暮らす人々が共同で利用する井戸などの共同施設、暮らしを見守るお地蔵さん・お稲荷さんがあり、大阪の都心生活の原風景を今に伝えています。



□まちなみの特徴

◎旧街道と、高低差のある地形における建物の工夫

京都から公家をはじめ様々な人々が往来した由緒ある熊野街道のほか、御祓筋や骨屋町筋、善安筋などの歴史的な道筋が通っています。また、上町台地の中でも独特の高低差のある地形により、石敷・レンガ敷の階段道や坂道、石垣が多く、まちなみを引き立たせているほか、高低差をうまく活用して建てられた長屋には、地下室が設けられているものもあります。



◎路地（ろーじ）やお地蔵さんと生活文化

まちを縦横に走る路地（ろーじ）には、代々そこに暮らす人々を見守ってきたお地蔵さんやお稲荷さんがいます。これらは、共同で使われてきた井戸・水道などの共用施設とともに、今なお大切にされているほか、屋根から高いのびる物干し竿（トンボ）や植栽などとともに、路地に住む人々の生活・文化が感じられる貴重な資源となっています。



◎表通りに面した町家や長屋

旧街道や歴史的な道筋を中心に、明治から昭和にかけて建てられた町家や長屋など、伝統的様式の建物が数多く残っています。

軒裏を銅版や漆喰等で仕上げたり、1 階の腰壁を石で仕上げた建物が多いのが特徴です。

谷町筋以东には、塀庭付の戸建や長屋もあります。



◎路地内にある長屋

表通りの町家の横から通じる路地には、平屋建てや2階建ての長屋が軒を連ねています。

路地にある長屋は、はめごろしの格子など仕舞多屋（住居専用）風で、2階部分を少し控えた構造となっており、採光を確保するための工夫がなされています。

また、路地の入口には冠木門（トンネル路地）が設けられており、表通りからも路地の雰囲気を感じることができます。



◎伝統的様式の建物等を活用した新しい動き

近年、町家や長屋などの伝統的様式の建物をはじめとした既存の建物をうまく活用して、住宅だけでなく店舗やギャラリーなどに再生する動きがあります。

これらは、まちなみのアクセントとなっているとともに、まちに新しい魅力をもたらしています。

